



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

新年明けましておめでとうございます。人々の『希望』の詰まった新年が明けました。お陰さまで新九郎も、地域の皆様に愛されるギャラリーとして、16年目を迎えることが出来ました。今年もアートを愛する皆様の展覧会が楽しみな1年となりそうです。誰もが気軽に立ち寄り、豊かな時間を過ごしていただける、文化の香りのするギャラリー新九郎でありたいと心新たにしています。

日本中が厳しい時代にある中、私たちの街小田原は、少しずつ動き始めている兆しを感じています。自治基本条例の施行と重なるように「自分たちの街をよりよい街にしよう」と言う思いで始めた「長谷川湍二郎展」がいよいよ始まります。多くの協賛と同じ思いを持つボランティアに支えられ実現した「長谷川湍二郎展」は、「市民力」と「協働」から生まれた展覧会でもあります。「良い絵を楽しむ喜び」「豊かな場のある幸せ」を一人でも多くの方々と共有したいと願っています。

新九郎 1月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

会期 展覧会名	見どころ	
1/11(水)~16(月) 第二回 ほのかの会水彩画展 出展者 加藤和信 加藤美千代 小林 謙 穴戸忠夫 進藤 武 鈴木敬子 多田杉彦 中村 敬 新見博司 林 克己	 小田原近郊を歩きながらスケッチし、描きあげた作品を着に楽しみ、味わい吞んでおります。	
1/18(水)~30(月) 常設展 (木下泰徳)		風景・静物・人物等の 水彩画 約40点
1/20(金) 新九郎デッサン会		18:15-20:45 コスチューム、固定ポーズ 会費 1500円

会期・展覧会名	会場
1/11(水)~23(月) 大谷英昭 水彩画展	飛鳥画廊 0465-24-2411
1/12(木)~16(月) 西相美術新春展	アオキ画廊 0465-23-5624
1/11(水)~2/6(月)火曜休廊 新春 富嶽展	お堀端画廊 0465-23-7819
1/11(水)~16(月) Art Now 2012	ぎやらりーぜん 0463-83-4031
1/7(土)~22(日) 第4回新春をひらく心展	すどう美術館 0465-36-0740
1/14(土)~ 31(火) 北村憲司彫刻展	ギャラリーさざれ石 0463-67-9662
~1/10(火) 広瀬玲子個展「白と色」	ナラヤカフェギャラリー 0460-82-1259 水第4木休
1/28(土)29(日) 杉崎早雲セレクト展	ギャラリー城山 0465-30-2950
1/2(月)~31(火) 絵手紙二人展 (曾根猛、羽田昭三)	はげ八鯨 0465-22-0945

長谷川湍二郎展

—あの猫に会いたい—

展覧会企画

ひじかためいじ

講師 土方明司氏 平塚美術館館長代理

講演会
1/7 ⊕
14:00-15:30
40人

ギャラリー
トーク
1/14 ⊕
14:00-14:40
20人

企画の入場には整理券が必要です。

まだ少しお席があります。お申込みください。(定員になり次第、締切となります)

申込先：郷土文化館(12/29-1/3 は休館)
1/4~1/6 0465-23-1377

- 講演会：参加無料(展示をご覧になる場合は入場券が必要です。)
- ギャラリートーク：入場券が必要となります。

小田原怪獣散歩

若林寧人

子供の頃から大好きな怪獣で、大好きな故郷小田原の名所や風景を紹介するイラストシリーズ **好評の小田原怪獣散歩、残念ですが最終回となります**



最終回は小田原駅。以前の三角屋根の愛らしい駅舎も好きだったが、怪獣が襲うのなら断然今の方が絵になる。実はこれを第一回目に載せるつもりだった。ところがその直後に大

震災が起きてしまって、内容的にもう少し穏やかなものに差し替えたのだ。ニュースで見た建物の天井落下の映像が、この絵を描く時に色々イメージした壊れ方とあまりに似ていたのには慄然とした。実際余震でこの大提灯が揺れるので、真下の部分が立入禁止になったくらいだ。必然的に破壊描写を伴う怪獣画のあり方について考えさせられた一年でもあった。この場を与えていただいた事に感謝したい。さて来る5月に新九郎で我々(秘)小田原ジャンクションの「小田原絵札展」が開催される。この連載に使った作品はまとめて展示する予定なので、皆様是非御来場を!

長谷川湊二郎展

あの猫に会いたい

2012 1月7日(土)~1月30日(月) 会期中無休

主催/長谷川湊二郎展実行委員会(おだわら ミュージアム プロジェクト・小田原市)

入場料/一般 500円(前売り 400円) 大高生 300円 中学生以下無料

会場/松永記念館 本館・別館(小田原市郷土文化館分館) TEL. 0465-22-3635

開催時間/9:00~17:00(入館時間 16:30 まで)

■平塚市美術館館長代理(兼)学芸主管 土方明司氏による

講演会(定員 40名) 1/7(土) 14:00~15:30

ギャラリートーク(定員 20名) 1/14(土) 14:00~約 40分

申込先:小田原市郷土文化館 0465-23-1377(定員になり次第締切とさせていただきます。)

[前売りチケット取扱い] 1月6日まで

伊勢治書店本店(小田原銀座通り)・ダイナシティ店(ロビンソン)・プラザ店(イトーヨーカドー)・二宮店・辻堂店



長谷川湊二郎展開催にあたって

一昨年、平塚市美術館を皮切りに全国四か所の公立美術館で巡回展が開催され、大好評を博した長谷川湊二郎展が、この度小田原ゆかりの方のご好意により開催できることとなりました。長谷川湊二郎は画壇には属さず活動し、一般にはなじみの薄い作家ですが、画廊主であり美術エッセイストで知られた州之内徹の「気まぐれ美術館」で紹介され、知られるところとなりました。昨年の全国巡回展により評価は一層確かなものとなっています。このような優れた作家の展覧会を小田原で開催することはほんとうに幸運なことと思います。

長谷川湊二郎の絵は身近な風景、卓上の静物等を画題とし、わかりやすく親しみがあります。また、目の前のものを描きながら現実を超えた不思議な魅力を湛えています。温もりのある静かで澄んだ画は、見る人に安らぎを与えます。

美しい庭園と教寄屋建築を備えた「日本の歴史公園100選」にも選ばれた松永記念館の散策とともに楽しみいただければ幸いです。

おだわらミュージアムプロジェクト 代表幹事 木下泰徳

●長谷川湊二郎展 ボランティアスタッフが作品の魅力を語ります。



乾魚

六年前、友人から「猫」の葉書をもらいエピソードをきいた。知らない画家だったが、なんとも幸せな絵でずっと壁の隅にはって眺めていた。一作年、平塚での「長谷川湊二郎展」ではじめて湊二郎さんのたくさん作品と出会った。実物を見てしか描かなかった人だということに、幻想的な景色、日常的な品々のひとつひとつの凄い存在感、さわってみたくなる。茶碗や花びんの艶の美しいこと、モデルの選び方や組み合わせが面白い、構図のとり方も興味が尽きない。「目の前にある現実の美しさ」を改めておもう。見慣れた花たちも陶器の花びんの中に不思議な納まり方だ。「猫」で感じた静かな幸せ感が会場全体を包む。絵を描いたり(キミコ方式で)観たりが好きで絵画展へも出かけるがこんな印象は、はじめてかな。二度、三度と平塚へ足を運んだ。「また来たよ」と入口で目礼した猫たちに、1年半でまた会えるとは、夢のよう。

ボランティアスタッフ 濱 悦子



函館風景

この「函館風景」を描いた当時長谷川湊二郎は23歳。函館新聞主筆の父、丹下左膳の作者として知られている兄海太郎、二人の弟も文学者、作家という一家に育ち、文学、美術、音楽と芸術全般にわたってその才能を発揮できる場所を模索していた時期の佳品である。薄暗い曇り空を背景として、抑えた色調で静物画のように建物を配しており、ハイライトになっている雪の白と相まって、見る者に非日常的な静寂感を感じさせる。

後年現実と非現実が混在すると評された彼の静謐な風景画の原点がここにある。

ボランティアスタッフ 野口 誠

新年明けましておめでとうございます。昨年は大震災がありギャラリーも一カ月程の間落ち着かない日が続きました。ふつうの事が普通にできることの尊さを再認識させられています。新九郎は一月はゆっくりとしたスタートですが、市民として参加している「長谷川湊二郎展」が松永記念館で始まります。

一昨年六月に「長谷川湊二郎展」が出来るかもしれないという情報を得た私たちおだわらミュージアムプロジェクトのメンバーは色めき立ちました。まだ前年平塚市美術館での展覧会の余韻が残っており、感動が甦った私たちはすぐ接触を始めました。その後何回かの交渉により、開催に向けての協力を得られることになり、早速小田原市に相談に伺いました。幸い加藤市長にご理解いただいたのを始めとし行政の方々のご協力、平塚市美術館館長代理 土方明司氏のご協力も得られ、ご協賛された方々、ボランティアスタッフの皆さん等等多くの方のご協力により開催の運びとなりました。

“ 西湘地域の芸術環境を整え、具体化していく事を願っていること”から実現しているという志を持つ私たちグループにとって、すばらしい第一歩の展覧会ができたと思います。

長谷川湊二郎作品の魅力を一人数でも多くの方々と分かち合えればと願っております。スタッフ一同、心よりご来場をお待ちしております。④